

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法100

津久見市の皆様、本連載も100回目を迎えることができました。

子どもの少ない地域だからこそ、少ない子ども達が健康に育つためのお手伝いをさせていただきたくて、都市部の市民や、時には小児科医の耳にも、まだ入っていないような最新の専門的な情報を、この欄や、津久見中央病院で毎月開催しているミニ講演会でお伝えしてきました。

それを支えていただいている津久見市医師会、津久見市、津久見市教育委員会に感謝申し上げます。

連載の初回は「子どもの発熱」についてでした。

しかし、その後、津久見市の子どもは県内最高レベルの予防接種率を維持するようになりましたので、感染症で重症化する心配は、その当時とは比べられないほど低くなっていると考えています。

そこで100回目となる今回は、次の内容をお伝えします。



大分大学地域医療・小児科分野 教授 是松 聖悟

—子どものちょっと気になる発達の話—

「うちの子、落ち着きがなくて心配」、「おとなしすぎて人見知り、新しいことに慣れるまで時間がかかる」、「何度、同じことを注意しても響かない・・・」、「マイペースで、周りが気にならないのかな?」、「この分野はこんなに得意なのに、別の分野は全く苦手」などなど、子どもが成長するともに、ちょっとした発達の気になることが増えてくるのではないかと思います。配偶者や親に相談したところ、「心配ないよ」とか「様子を見ていけば、そのうちできるようになるよ」と言われて安心したり、でもまたちょっと心配したり…。子育てって本当に難しいですね。「様子を見る」より、確実にその子のためになることがあります。それは「苦手分野を早く克服させる、ちょっととしたコツ」を周りにいる人が習得することです。今日は、そのお話しをします。

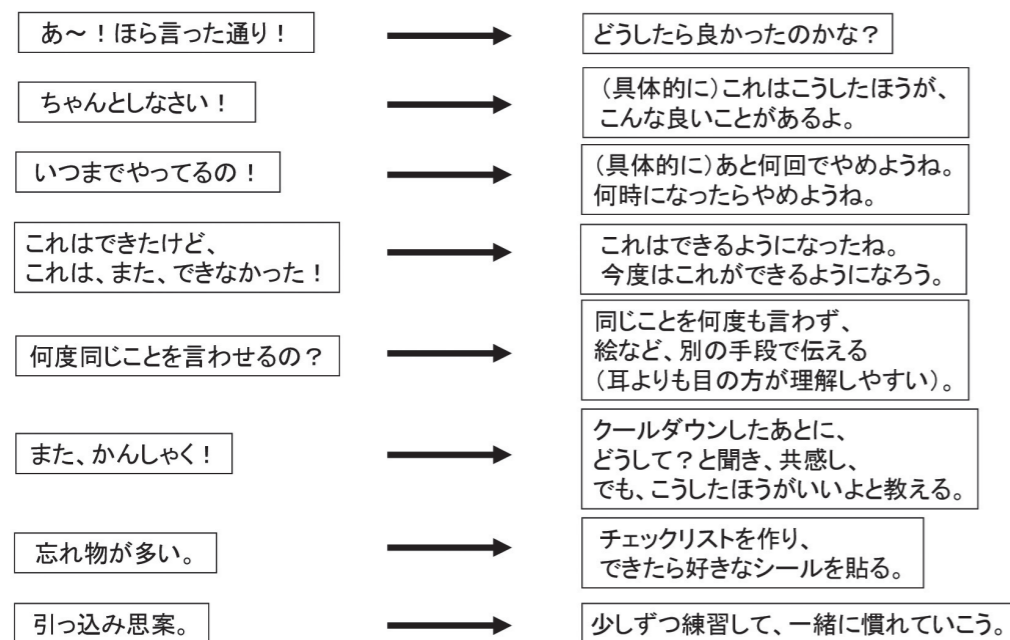
実は、前述のようなちょっとした心配をかけてしまうお子さんは、約30%もいると言われていますので、子どもを持つご家庭だけでなく、保育士さんや学校の先生方など、

子どもに関わる人達には知っておいていただきたいことです。というのは、苦手分野を持つ子どもは、その分、他の人よりも優れている得意分野が必ずあるのに、苦手分野が目立ってしまい、それがもたらで、ほめられるよりも叱られることが多くなってしまいがちです。その結果、自尊心が低く育ってしまい、場合によってはやがて社会に反する行動をとってしまうこともあるかもしれません。この子ども達は、他の子ども達よりも「優しさ」を持っています。そしてスポーツや芸術分野で職人的な得意分野を持っていることも多いです。その分野で成長できたはずの芽を、周りにいる人の関わり方によって摘まれてしまうこともあるようです。

分野で苦労した人が多いと言われている。では、具体的にどうするか?です。3つのステップを踏んでいきましょう。第1のステップは発想を転換させることです。10分じつとしていられない子にイライラするかもしれないですが、あなたは10時間じつとしていられますか?目についたもの全てに手を出して落ち着かない子に困っているかもしれないが、あなたは商店街で全てのお店に「大バーゲン」という垂れ幕がかかっている、それを素通りできますか?すぐにかんしゃくを起こす子に「また?」と思うかもしれません。あなたの宝物を壊されたら、怒りませんか?新しいことを怖がってなかなか進めない子どもに苦労しているかもしれないですが、あなたは地上50階のビルの中に掛けられた綱を渡ることが出来ますか?何事もモタモタしている子を急かす気持ちもわかりますが、知能指数300の天才の中で、何もできないと中傷され続けられ、知能指数200の天才も道を誤るのではないのでしょうか?閾値の差であつ

て、このような子ども達は苦しいに違いありません。性格もゆがんでしまいかねません。まずは叱られるばかりの子どもを苦しさを理解してあげてください。第2のステップは、苦手分野の数だけ、得意分野があります。それを見つけてあげてください。「優しさ」、「記憶力」、「工作」、「スポーツ」などなど。そこに気づくと、その子どもを尊敬することが出来るようになります。得意分野が伸びるよう、どんどんさせてください。そしてたくさんほめてあげてください。得意分野で得た自信は、苦手分野を克服するエネルギーにつながります。そして第3のステップは、苦手分野の克服です。そのひとつとして、フローチャートに「子どもを伸ばす言葉」の例を記載しました。これを参考に、言葉がけの方法を少し工夫してみてください。それは、「様子を見る」よりも確実に、子どもを良い方向に導く手段だと思えます。さらには、これらの言葉は、発達のちょっと気になる30%の子どものみだけでなく、全ての子ども

子どもを伸ばす言葉の例 フローチャート



が伸びる言葉だと思えます。そして、それでもうまくいかない場合は、保健師さんにご相談してみてくださいいかがでしょうか?フローチャートに記載していない「ちょっととしたコツ」もしくは「コツ」を知っている人」を教えてください。